

41721242 R3 高齢者在宅長期ケア看護学特論 I 看護学と理論

担当： 山本則子

オンライン開講

03-5841-3508

e-mail noriko-tky@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

目的：

- ① 学問の発展に寄与する理論の意義・構造・開発方法に関する理解を深める
- ② 看護学における理論の位置づけを歴史的に理解する
- ③ 概念・理論の評価方法を学ぶ
- ④ 健康・医療領域の研究で用いられる諸理論について、その概要と看護学への寄与について検討する
- ⑤ 自分の研究課題の看護学の中での位置づけを検討し、研究者としての自分のスタンスに関する自覚を高める

文献：

- Meleis, A.I. (2017). *Theoretical Nursing: Development & Progress* (6th ed.). Lippincott, Williams & Wilkins.
- 筒井真優美(2015). 看護理論家の業績と理論評価. 医学書院.
- Chinn, P.L. & Kramer, M.K. (川原由佳里監訳) 看護学の総合的な知の構築に向けて (第 6 版) (original 2004, 翻訳版 2007). エルゼビア・ジャパン.
- Fawcett, J. (太田喜久子、筒井真優美監訳) 看護理論の分析と評価 (新訂版) (original 1993, 翻訳版 2008). 医学書院.
- McEwen, M. & Willis, E.M. (2014). *Theoretical Basis for Nursing*. Wolters Kluwer.
- Watson, J. (2012). *Human Caring Science: A Theory of Nursing*. Sudbury: MA, Jones & Bartlett Learning.
- 薄井坦子. (1997). 科学的看護論 (第 3 版) 日本看護協会出版会

参考文献：

- 久間圭子. (1998). 日本の看護論—比較文化的考察 日本看護協会出版会
- 池川清子. (2003). 看護—生きられる世界の実践知 (第 5 版) ゆみる出版
- 野島良子. (2009). 看護科学のパラダイム転換—質的研究はいつ、なぜ登場したのか へるす出版
- Prasad, P. (箕浦康子監訳). 質的研究のための理論入門：ポスト実証主義の諸系譜 (original 2005, 翻訳版 2018). ナカニシヤ出版.

スケジュール：

4月22日

概要説明・役割分担・文献印刷

講義：これからの看護学の機能と構造

5月13日① 看護学の研究者になるということ

1. 筒井 第1章 看護学・看護科学の発展.
2. Meleis Chap 2 On Being and Becoming a Scholar.

討議 1

大学院修了者に期待される役割は多様で、それぞれが自分の関心や志向性に基づいて皆で貢献しあい、協力し合って初めて、日本の看護学の発展が実現します。

- (1) 大学院にきた理由と将来の抱負について、それぞれ自分のことを紹介し合ひましょう。さまざまな理由で大学院にきた人がいて、将来の抱負も多様でしょう。
- (2) さまざまな抱負をもつ私たちがどのように協力し合えば、日本の看護学の発展に貢献できるでしょう。

5月13日② 看護学において「知」とはどのようなものか

1. Chinn & Kramer Chap 1 看護学の基本的な知のパターン
2. Meleis Chap 8 Our syntax: An Epistemological Analysis.

討議2

私たちの研究課題は、看護学の学問体系の中で、どのように位置づくでしょうか。今後の発展の方向性を含めて考え、共有しましょう。自分や他の参加者のもつ研究課題とその方向性の多様性を、どのように感じますか？

5月27日① 看護学において「理論」とはどのようなものか

1. 筒井 第2章 看護理論
2. Meleis Chap 9 Nursing Theories through Mirrors, Microscopes, or Telescopes
3. Watson Chap 1 Introduction: Context for Theory Development

討議3

看護の実践に対して、理論はどのような役割を果たすと考えますか。自分の研究の中で、理論をどのように位置づけられるでしょう。

5月27日② 看護学はどのように発展してきたか

1. 筒井 第4章 看護理論の歴史
2. Chinn & Kramer Chap 2 看護における知識開発の歴史

討議4

看護学はこれまでに多くの研究者の取り組みが積み重なって発展してきました。その経過を振り返り、これからどのようなとりくみが必要と思われるでしょうか。

- (1) 看護学が発展する上では、どのような研究者のとりくみが求められるでしょう。
- (2) 日本における看護学の発展のために、私たちはどのような役割を果たしてゆけるでしょうか。

6月10日 特別講義 看護学と理論 坂下玲子先生 (兵庫県立大学)

6月24日① 概念構築・理論構築

1. McEwen & Wills Chap 3 Concept Development
2. Meleis Chap 16 Developing Theories

討議5

概念・理論とはどのようなものか、看護研究の発展にどのように役立てるか。

6月24日② 理論の評価

1. Fawcett Chap 2 看護理論の分析と評価
2. Meleis Chap 10 A Model for Evaluation of Theories: Description, Analysis, Critique, Testing and Support

演習1-1

特定の看護理論を選び、分析評価を試みよう。誰か一人は薄井坦子の「科学的看護論」を。理論評価の枠組みは、勉強した Fawcett、Meleis や筒井 (第3章) などの文献に依拠するが、以下の点を含めてほしい

- ① 理論開発の時代的・文化的背景
- ② 理論の変遷・発展

- ③ 理論の基本構造と機能
- ④ 理論の前提
- ⑤ 理論の長所（強み）と限界

7月8日① 看護学の理論評価
演習1-2 発表

7月8日② 演習2-1 研究に用いられる理論の評価・研究への活用の実際

自分たちが今後の研究で用いることのできそうな理論を選び、評価する。理論評価の方法は看護学の理論評価と同じ。さらに、評価した理論を活用した研究論文を探し、活用の仕方（良い点・限界等）を、理論評価の結果に基づいて実施し、当該理論を活用する場合の今後の課題をまとめる。

以下の理論が代表例であるが、それ以外に考えても良い。

- ① ストレス・コーピング理論
- ② ソーシャルサポート理論
- ③ 社会的認知理論（自己効力感）
- ④ ヘルス・ビリーフモデル
- ⑤ 多理論統合モデル（transtheoretical model）

7月22日 研究に用いられる理論の評価・研究への活用の実際
演習2-2 発表

- 期末レポート： タイトル「授業評価と今後の理論活用の抱負」（A4 1枚 電子メールで提出のこと。提出期限 8月6日（金） 17:00）

評価：

講義および演習への参加 50%

文献紹介プレゼンテーション 30%

期末レポート 20%